

令和8年度 第1回米子市子どもの読書活動推進ビジョン検討委員会 会議概要

○日 時 令和8年6月29日（月）午後3時から午後5時10分まで

○場 所 米子市立図書館 2階 多目的研修室

○出席者 委員

渡邊眞子（会長）、坪倉寿樹（副会長）、頼田敬子、隠樹佐与志、山田知子、河津ルミ子、
草分紀吉、金本由香、松嶋和広、笹鹿啓子（敬称略）

事務局・担当課

教育委員会：浦林教育長、金川事務局長

生涯学習課：田中課長、松永課長補佐、前田主任、新見主任

市立図書館：永瀬図書館長、佐藤図書課長

地域振興課：遠藤課長補佐

こども政策課：宮中担当課長補佐

学校教育課：三代担当課長補佐

こども相談課：竹中主任、荒木主事

こども施設課：前畑課長補佐、榊本担当課長補佐、松原保育リーダー、
竹内係長、山田主任

児童文化センター：清水副館長

○欠席者 なし

○傍聴者 なし

○報道関係 1社

【検討会の概要】

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

4 会長及び副会長の互選

会長に渡邊眞子委員、副会長に坪倉寿樹委員を選出。

5 議事

（1）米子市子どもの読書活動推進ビジョン（第4次計画）の概要説明

資料1に基づいて説明。

（2）第4次計画の振り返り

資料2に基づいて説明。また、事務局および各担当課から、現行の第4次計画（令和4年度から令

和8年度までの5年間)の成果と課題について報告した。

○主な成果：小・中学校での朝の読書の実施、保育所等での読み聞かせと家庭への絵本貸出の実施、市立図書館へのWi-Fi設置などを行い、移動図書館車による特別支援学級への貸出冊数も目標を上回った。

○主な課題：全国学力調査において「全く本を読まない子どもの割合」が増加しており、目標を下回る結果となったほか、少子化や人口減少に伴い、図書の貸出冊数が減少傾向にある。また、ICT端末の普及や動画メディアの影響により、子どもの読書離れが危惧される。家庭での読書習慣の定着に向けた保護者への啓発が大きな課題となっている。

(3) 第5次計画の策定方針

資料3に基づいて説明。

○計画期間：令和9年度から令和13年度までの5年間

○対象者：おおむね18歳以下の全ての子ども

○計画の構成：第5次計画では、「家庭」「地域」「学校等」の3つの実施主体(場所)を計画の縦軸、「人材育成」「普及啓発」「ICT活用」などの横断的な項目を横軸とすることで、より分かりやすい構成とすることを提案した。

委員からの主な意見・提案(意見交換)

第5次計画の作成に向けて、各委員から現場の具体的な状況や、今後の取組に向けた多くの意見が交わされた。

(主な意見)

- ・ただ朝読書の時間を設けるのではなく、なぜ読書が大事なのかという意義を子どもに伝えることが重要ではないか。
- ・ICTの進化によって、障がいのある子どもが電子書籍のページを視線の動きでめくれたり、内容を音声で聞けるものもあり、子どもたちの読書に活用している。
- ・100冊読んだ子どもを学校図書館に掲示し達成感を感じてもらえるようにするなど、学校図書館をもっと楽しい場所にする工夫があると良いのではないか。
- ・本を読まない子どもが増えた原因には子どもたちが動画視聴をする時間の増加や保護者世代の本離れの影響があるのではないか。子どもに読書習慣をつけるには、まず保護者への啓発が不可欠だと思う。
- ・鳥取県の「子ども読書アドバイザー制度」等、専門的な研修を受けた人材を積極的に活用するのも良いと思う。
- ・人材育成という意味でも、中高生ボランティアが小学生に読み聞かせを行うような機会があるのも良いと思う。
- ・ICT化が進む中でも、紙の質感や匂いなど紙の本での読書から得られる感覚も大事にしたい。
- ・親子で本に触れあうきっかけづくりとして、人気の絵本作家を招いての体験型イベントを行ってはどうか。

6 その他

今後のスケジュールを共有。今回出た意見を踏まえて事務局が第5次計画の素案を作成・共有し、次回の第2回検討委員会（令和8年9月17日 午前10時開始予定）にて素案の確認を行うこととした。

7 閉会